

「折り返し」って何折り返すの？

清水 泰生 (同志社大学)
app@fsinet.or.jp

【要旨】

「折り返し」という言葉は何を折り返すのであろうか。本論は朝日新聞社からの質問で論者がコメントを述べたことをさらに詳細に深く考察したものである。マラソン、ロードレースの折り返しは中間点でない場合が多く、マラソンコース自体、折り返しがなくてもよい。戦後以前は「折り返し(点)」が使わず「引き返し(点)」が使われた。戦後から往復のマラソンコースが増え「折り返し(点)」が使われるようになった。1960年後半になると期間の中間という意味で折り返しが使われ、リーグ戦など選挙戦、任期などに使われ、のちに「人生の折り返し」というのが、使われるようになった。

1. はじめに

朝日新聞から夏の宿題として2019年8月に以下のメールが来た。

1) 「折り返し」「折り返す」を時間に転用して使う用法は、取り上げていない辞書も多く、用例を調べるとどうもスポーツに関わる文脈で使われていることが多いようです。(例「中日を全勝で折り返す」「チェルシーは0-0で前半を折り返すと」など)

スポーツに関わる文脈で使われることが多いことばだと考えてよさそうでしょうか。(80代の読者から、7月ごろを「1年の折り返し」ではなく「中間点」では？というご意見がありましたので疑問をいただいた次第です)

2) そうだとすると、どうしてスポーツで時間的に「折り返す」という使い方がされるようになったのか、わかる範囲で教えていただけませんか。

3) どの競技で使われ出したのでしょうか。

4) マラソンで使っている場合があります。この場合は「後半に入る」「中間地点」という距離という意味で使われているのでしょうか。

5) マラソンと人生を重ねて表現する人がいますが、「人生の折り返し」などという使い方と関係あると考えてもよいでしょうか。

この問題について私は回答をして2019年8月24日の朝日新聞朝刊「ことばサプリ」で私のコメントが取り上げられた。本稿は、そこで詳細に回答しきれなかったことや発展したことがあったのでそれらを中心に述べてみたい。

2. スポーツ言語学の分野

まず、この研究の位置づけを見てみよう。この分野はスポーツ言語学の分野に入ると言える。

スポーツ言語学はスポーツと言葉のかかわりを研究する分野であり、「スポーツ言語学」は、大きく分けて五分野に関する研究だと清水(2016)で考えた。

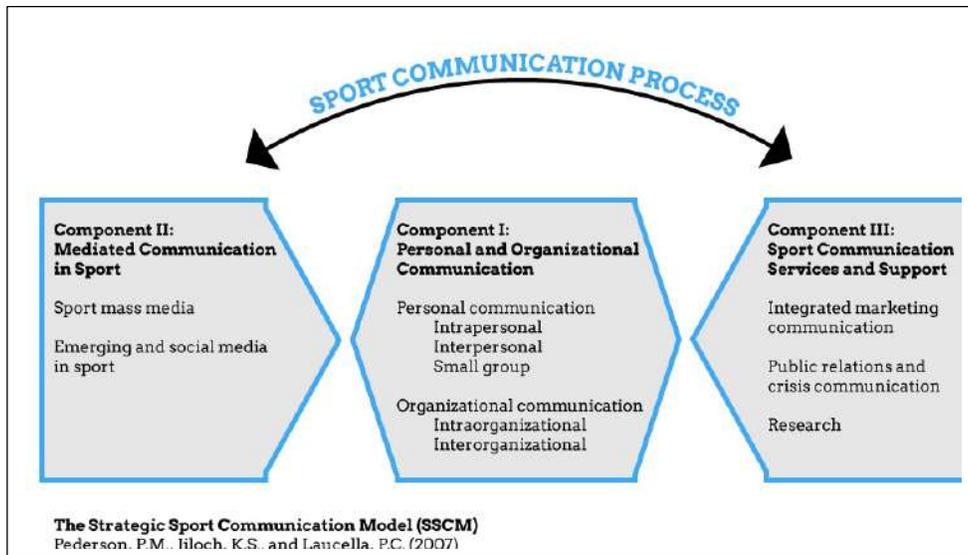
- その一 スポーツ用語に関する研究
- その二 スポーツのメディア媒体に関する研究
- その三 競技者、指導者等のやり取りに関する研究
- その四 外国語習得にスポーツ、身体運動を用いる
- その五 その他

今回の考察は、用語の考察なので、その一に該当すると言える。

3. スポーツコミュニケーション学とは何か。そして本研究との関連性

アメリカではスポーツコミュニケーション学が盛んにおこなわれている。日本ではスポーツコミュニケーション学科や課程の名称があるが2021年8月までは全国的な学会、研究会はなかった。しかし日本も2021年9月4日にスポーツコミュニケーションフォーラムが開かれ2020年2月27日に第二回のフォーラムが開かれた。

Pedersen, P.M., Miloch, K. S., & Laucella, P. (2007) によるとスポーツコミュニケーションの枠組みは以下の図ようになる。



ComponentIIの「スポーツでメディアコミュニケーション」の領域は、スポーツ言語学と共通した部分であり、日本学とも大いに関連すると言える。日本のスポーツメディアの特徴、日本のスポーツメディアを通して日本とは何かについて考えることは日本学と関連するのであろう。ただ、本稿は用語についての考察であるので ComponentIIとは関連しない。ComponentIの「個人と組織のコミュニケーション」の領域も個人とグループ、組織とのコミュニケーションを通して日本の集団文化を考えることになるので日本学の方野だと言えるが、これも本稿は用語の考察であるので ComponentIも該当しない。ComponentIIIの「スポーツコミュニケーションにおけるサービス、支援」の領域は、スポーツ経営学、ビジネスの方野であり、日本学とは関連がある。しかし、これも、本稿は用語についての研究であるので ComponentIには該当しない。(ComponentIIと ComponentIでは、どちらかという ComponentIIの方が具体的な事例研究が多く、日本学と関連が強いように思われる) 以上見てみると本稿の研究は、

スポーツコミュニケーション学の領域ではないと言える。

4. 辞書の記述

代表的な辞書の「折り返し」の記述をみてみよう。

『デジタル大辞泉』

おり-かえし [をりかへし] 【折(り)返し】

[名]

- 1 着物などを折って二重にすること。また、その部分や折り目。「ズボンの—」
- 2 ある地点から引き返すこと。また、その地点。折り返し点。
- 3 全体の間を過ぎること。前半が終わり、後半になること。「リーグ戦が—の時期を迎える」
- 4 詩歌の、末尾の語句の繰り返し。リフレーン。ルフラン。

[副] 手紙・問いかけなどに対し、間を置かず対応するさま。また、着いてすぐ帰っていくさま。すぐさま。ただちに。「—電話します」「—帰路につく」

『日本国語大辞典第二版』

おり-かえし [をりかへし] 【折返】

[名]

(1)和服や洋服などで、折って二重にした部分。

*評判記・色道大鏡〔1678〕二「帷子（かたひら）のおりかへし、袖すそのおりかへし、よからぬ業なり」

*滑稽本・浮世床〔1813～23〕二・下「両手で羽織の折返しをずういとしごいて」

*人情本・春色辰巳園〔1833～35〕後・一〇回下「袖口は縮緬（ちりめん）、絞りのちりめん三寸程、奥の裏袖折返しに付たるは、とき色ちりめんなり」

*浅草〔1931〕〈サトウハチロー〉金網模様の青空・一「ずぼんは折返（フリカへ）しをつけるかい」

(2)詩や歌で、各節の末尾に同じ語句を繰り返して用いること。また、その語句。リフレーン。

*放浪時代〔1928〕〈龍胆寺雄〉一・五「僕も最初の抑揚の浅いあの折返しの部分しか覚えて居ないので、彼女にねだられてもそこだけしか弾けないのだが」

*ブウランジェ將軍の悲劇〔1935～36〕〈大仏次郎〉シュネブレ事件・四「あたしゃつくづく見惚れたよブウランジェ將軍の勇ましさ〈略〉と云う文句が、歌の第二章、折返しの前に附いてみた」

(3)ある所まで行って、来た方向にひき返すこと。また、その地点。

*浮世草子・風流曲三味線〔1706〕六・三「ちと宿に叶はぬ用事を失念して来たれば、折返しに急に帰りて来るべし。大小をわたされよ」

*人形愛〔1976〕〈高橋たか子〉一「T市からきた電車がN駅で折返しになり」

(4)（副詞的にも用いる）手紙などで、すぐ返事をするさま。

*湖畔手記〔1924〕〈葛西善蔵〉「それが折返しの今日の絶望的な細君の葉書だった」

*途上〔1932〕〈嘉村磯多〉「同人の文士たちに見窄らしい田舎者の父を見せることを憂へて、折返し私は電報で上京を拒んだ」

(5)平面上の図形をその平面上の直線に関して線対称移動すること。

二つの辞書を見てみると「服などを二重にすること」、「引き返すこと」、「後半に入ったことを意識する」ことなどが意味記述として挙げられていることが分かる。

5. データー

本稿について考察する際に用例のデーターベースは次のものを使った。

- ・聞蔵...1879年1月1日～2019年12月31日(朝日新聞データーベース)
- ・ヨミダス歴史館...1874年1月1日～2019年12月31日(読売新聞データーベース)
- ・毎索...1872年1月1日～2019年12月31日(毎日新聞データーベース)

送り仮名が、「折り返し」「折返し」「折返」が考えられるため「折り返し」「折返し」「折返」で検索をかけたデーターを収集した。なお、漢字の旧字体等で書かれているところは、著者が新字体に直した。

6. マラソンの「折り返し(点)」

マラソンの「折り返し(点)」についてみてみよう。「折り返し(点)」は、中間点とは限らない。例えば東京マラソンの現在のコースは2か所が折り返しである¹。それから、マラソンコースは「折り返し」はなくてもよい。ボストンマラソンは、折り返しのない片道コース、2021年の大阪国際女子マラソンは長居公園のロードコースを周回するのであった。日本陸上競技連盟(以下日本陸連)のマラソンのコースの規定に「折り返し(点)」の規定は出ていない。このことについてはあとで述べる。

2007年東京マラソン以来「折り返し(点)」が複数ある大会が増えた。なお、高橋(1981)によると海外のマラソンは、「折り返し(点)」には無頓着であるようである。

7. マラソンの歴史

マラソンの歴史について述べてみよう。1896年第1回アテネ五輪でフランスの言語学者ミシェル・ブレアル(1832—1915)がこの故事に倣ってオリンピック種目にマラソンを入れることを提唱し、マラソンが採用された。五輪の翌年1897年ボストンマラソンが始まった。

黒田(2021)によると明治中期に整備された日本の中等・高等機関で内部的に「長距離走」が行われていたようである。1898年以降、多くの中等・高等機関で「遠足」や「健脚」等の言葉で長距離が行われた。そして、1909年(明治42年)3月21日に開催された「マラソン大競走」は日本最初のマラソン大会であった。兵庫県神戸市兵庫区の湊川埋立て地から、大阪市の西成大橋(現淀川大橋)までの距離約32kmのコースである²。

1912年(明治45年)のストックホルムオリンピックで日本人(二人)初参加であった。一人はマラソン出場の金栗四三であった。

1908年ロンドンで行われた第4回五輪大会の42.195キロメートルが今のマラソンの距離である。1921年国際陸上競技連盟42.195キロをマラソンに決定した。そして、1920年代日本で市民マラソンブームになった。2009年04月03日朝日朝刊によると次のようであった。

¹ 2022年3月6日開催の東京マラソン2021は飯田橋付近の目白通り及び高輪付近の第一京浜の工事に伴って一部コースの変更をして行ったのでその大会は除く。

² 黒田(2021)より

・(1)マラソン、大正時代にも流行

東京マラソンがきっかけで空前のマラソンブームだが、大正時代にも「マラソン流行」があった。

1925（大正14）年から26年にかけて、東京で「外堀1周マラソン」「内堀5周マラソンリレー」「クロスカントリーレース」などの大会があった。地方でも「70マイルマラソン」（東京—福島）、「駒ヶ岳登山マラソン」（長野）、「富士登山マラソン競争」（静岡）といった大会が催された。

25年8月には、専修大生中鶴武臣が青森—東京間を15日かけて「ウォーキング・アンド・マラソンで駆け抜けた」という記事がある。ランと競歩のような歩きを繰り返したようだ。「ウォーキングを見たこともない地方の人に尻振りマラソンが来たと冷やかされ通しでした」という談話も載った。

東京の新宿—国分寺間30キロを走る「民衆マラソン競走」（三多摩スポーツ倶楽部主催）の広告が25年1月9日付に出ている。「年齢、職業を問わず」というから今の市民マラソン大会と変わらない。

この大会は延期になり、3月20日付に、改めて21日に開催するという広告が載った。西武グループを築いた堤康次郎の箱根土地株式会社が主催し、名称も「国分寺大学都市民衆マラソン」に変わった。だが、記事は大会に一言も触れず、翌年以降の紙面には広告も見あたらない。

これを見ると当時、折り返しのコースではなく片道コースや周回コースだったように思われる。

8. コースの条件

マラソンのコースの条件は何か。以下がマラソンの世界陸連公認（日本陸連も公認）マラソンコースの条件である。

- ・コースの長さは競技距離より短くはならず、かつ誤差は競技距離の1000分の1以下（マラソンでは42m以下）
- ・上記の条件を満たすべく、距離の測定にあたっては1001mをもって1000m=1?kmとする
- ・スタート地点からゴール地点までの標高の減少は競技距離の1000分の1以下（マラソンでは42以下）注：全体が下り坂基調のコースを禁止するため。
- ・スタート地点とゴール地点との距離は、直線で競技距離の2分の1以下 注：一本道の直線に近いコースでは気象条件によっては常に追い風になる可能性があるため。

なお、日本陸連公認大会は日本陸連公認コースで行われ、選手は、日本陸連登録選手であり、日本陸連公認審判員のもとで行われることが必要である。

以上見てみると、「折り返し」については日本陸連公認コース、日本陸連公認大会の認定の必須要素に入らないことが分かる。

9. コースの特徴

高橋進（1981）によるとマラソンコースには、片道、往復、循環、周回のコースがあり 外国では、中間点に無関心でコース図に明示されるのは皆無だと述べている。しかし、近年、世界的にハーフマラソンが多く行われているので中間点が表示される大会も多くなっている。日本では、競技場からス

タートゴールの往復コースで「折り返し点」が中間点にならないものが多かった³。2021年に大会がなくなったびわ湖毎日マラソン、福岡国際マラソン⁴、最古の大会になった別府大分毎日マラソンがそうである。日本では、東京マラソン 2007以降、日本では、複雑なコースが多くなった。市民ランナーが走るということでコースに名所を取り込む大会が多くなり「折り返し」が多くなったからだと言えよう。

10. 「折り返し」の始まり

新聞での「折り返し」の語は、「折り返し糸」から始まった⁵。

- ・(2)器械座操折返し糸 (1883年8月3日朝日 大阪⁶朝刊)

1904年前後まで「折り返し糸」は、よくあらわれる。そしてその後「折り返し靴下」などが現れる。

- ・(3) (広告) 松直商店 折返し靴下 (1925年11月1日朝日 東京 朝刊)

そして、「動作をかえる、方向を180度変える」意味の交通の「折り返し(運転)」が1904年ごろから使われ出される。

- ・(4)~新橋小山間の上りは神戸、足柄間にて折返し運転 (1904年2月3日朝日 東京 朝刊)

同時期に「相手からの受けたものを一呼吸置いて返す」という意味にも使われるようになる。以下の用例がそうである。

- ・(5)昨日日本の註佛公使より長文の電報其の筋に到達し小村外相より折り返し訓電を發せり~ (1904年2月26日読売 朝刊)
- ・(6)摂政宮より良子女王へ 安否いかにとお尋ね 女王よりも折返し (1924年1月16日朝日 東京 朝刊)

11. マラソンでの「折り返し(点)」

1910年代後半からマラソン大会は盛んだったが「折り返し」⁷という言葉は1945年までの新聞(毎日、朝日、読売)は、私は見た限りなかった。1920年1月29日朝日 東京朝刊、1927年10月28日の朝日東京朝刊では「引き返す」という言葉が使われていた。1924年7月15日 毎日 東京⁸朝刊 (パ

³ スタートして競技場のトラックを何周かしてからロードレースに入ったり、ロードから競技場に入り何周か回ってフィニッシュしたりする大会が多いためである。

⁴ 日本陸連・福岡県・福岡陸協は2022年3月14日、2021年大会で廃止となった福岡国際マラソンの後継大会「福岡国際マラソン2022」(仮称)を2022年12月4日に開催すると発表した。

⁵ 『日本国語大辞典第2版』によると「折り返し」は1678年に出ている。本稿は新聞のデータベース資料なのでそれ以前の資料は扱っていない。本稿の考察はデータベースによる資料の考察なのでそれ以前については今後の課題にしたい。なお、現代マラソン競走は1894年第一回五輪(アテネ)からなのでマラソンの「折り返し」は1872年以前の資料には出てこないと言える。

⁶ 1940年8月31日までは東京朝日新聞と大阪朝日新聞に分かれていた。よって1940年8月31日までは、本文、用例の「東京 朝日」は、東京朝日新聞、「朝日 大阪」は大阪朝日新聞である。本文、用例の「朝日」は朝日新聞、「毎日」は毎日新聞、「読売」は読売新聞である

⁷ 「折返し」「折返」も含まれる。

⁸ 本文、用例の「毎日 東京」は、毎日新聞東京本社の前身 東京日日新聞(明治5年2月21日~

リオオリンピックマラソン)⁹では「引き返し点」であった。1936年8月10日朝日 東京朝刊（ベルリン五輪のマラソン）も「引き返し点」であった。なお、1945年代ごろまでは「～往復」と言う表現がほとんどのようであった。そういう表現でなければ「～引き返し」という表現が使われていた。1945年ごろまでは「折り返し（点）」ではなく「引き返し（点）」であると考えていいと言えよう。

- ・(7)巢鴨監獄側を通り板橋町に出て中山道を通り志村坂上に至りそれより引き返して往路と同じく高師校庭の決勝点に入る。(1920年1月29日朝日 東京 朝刊)
- ・(8)金栗は田代を抜き引き返し点では～(1924年7月15日毎日 東京 朝刊)
- ・(9)いよいよ引返し点だ。(1936年8月10日朝日 東京 朝刊)

なぜ「折り返し(点)」でなく「引き返し(点)」だったのかは『日本陸上競技連盟七十年史』等を調べてみたが書いておらず、まだわかっていない¹⁰。このことは今後の課題としたい。

なお、1947年以降マラソンでの「折り返し(点)」が多く使われるようになった。おそらく1946年以降から始まった福岡国際(1947年)、びわ湖毎日マラソン(1946年)、別府大分(1952年)が「あるところ」発着のコースである(ただし中間点が折り返しとは言えない)が多かったのもそうなのであろう¹¹。

- ・(10)～前半1時間45分44秒で折返し点に達したが～(1947年12月8日朝日 朝刊)

1.2. 東京五輪1964マラソン、円谷選手、メキシコ五輪マラソンの君原選手と「折り返し」

東京五輪1964のマラソンの様子と円谷選手のレース、メキシコ五輪マラソンの君原選手のレースの印象が強かったので「折り返し」に対して人々の強い思い入れや意識があったのではないと思う。現在、東京五輪1964マラソンの折り返し地点にプレートと記念碑が残っており当時100万人の人が声援をおくったようだ。折り返し点はほぼ中間点(と言っても20,5417キロと厳密には中間点でない)で、当日円谷幸吉の後半追い込みでスタジアム前までは二位まで上がり、結局あと約200メートルで抜かれた(銅メダル)ことが現在も語り草になっている¹²。それから、メキシコ五輪でも君原選手の後

昭和17年12月31日)である。昭和18年1月1日より大阪毎日新聞と東京日日新聞が同じ毎日新聞となった。

⁹ 用例(8)である。

¹⁰ 当時の陸上競技の専門誌、専門本に当たる必要があるだろう。

¹¹ 別大の例を挙げると1952年の第1回大会は別府駅前を発着点とし大分市白木を折り返す35kmで行われた。翌53年からは、別府湾に沿って走るシーサイドコースの42.195kmとなった。当初は、別府市(別府駅前、のちに別府国際観光港前)発着・大分市鶴崎折り返しだったが、83年から大分市陸上競技場発着・別府国際観光港前折り返しに変更。なお、2010年(第59回)から現在の「うみたまご前」をスタートし大分市競技場をフィニッシュにするコースに、さらに16年から高低差がより少ない現在のコースになっている。

¹² 昭和39年10月21日、東京五輪1964のマラソンランナー達は国立競技場(新宿区霞ヶ丘町)をスタートし、新宿で明治通りから甲州街道へ入り、調布市で折り返し、再び国立競技場へと向かった。一方東京パラリンピック2020のマラソンコースは新国立競技場(オリンピックスタジアム)をスタート～富久町～水道橋～神保町～神田～日本橋～浅草雷門～日本橋～銀座～増上寺～銀座～日本橋～神田～神保町～皇居外苑～神保町～水道橋～富久町～新国立競技場(オリンピックスタジアム)でフィニッシュであった。東京五輪2020のマラソンのコースは、大通公園をスタート・フィニッシュ

半首を振りながら追い込み、高地での死闘で銀メダル獲得があって、さらに「折り返し(点)」の使用に拍車がかかったのではないかと思う。なお、メキシコ五輪は片道コースである。

(11) のように「中間点を〇〇(タイム)で折り返し」というマラソンで、折り返し地点がないのに使う用法(期間に転用、この場合も前半、後半という概念)も出てきたようだ。

・(11) しかし、高校を卒業して1年目の18歳、雨と寒さの悪条件の中、中間点を1時間14分23秒で折り返す¹³と、起伏の激しい終盤も粘りを見せ、予定を大幅に上回る好記録で雨の東京ビッグサイトにたどりついた。小出監督は「マラソン向きだよ。五千メートルが15分10秒まで行けば、2時間17～18分は行っちゃう」と評価した。北京五輪は現時点で、五千メートルで狙う方針。しかし、「本人がマラソンって言ったら? どうすっかな。じっくり育てるつもりだったからさ。あっはっは」。(2007年02月20日 読売 朝刊)

13. 期間の「折り返し(点)」

1968年ごろから、道のりに使う用法から時間に転用して使う用法として、プロ野球で使われ、1970年に入ると更にボールゲームのリーグ戦、それからしばらくしてから前半後半を持つサッカー、ラグビーなどのスポーツで使われてきたようだ。ボールゲームのサッカー、アイスホッケー、バレーボール等のリーグ戦は1960年代以降なので野球よりもずっと後である。

なお、野球のオールスター戦は1951年に始まった。オールスター戦を境にして前半後半という認識なので折り返しは、ペナントレースの全試合の半分ではない。

それぞれの競技種目を見てみよう。野球の場合1968年以降に現れ始めた。

- ・(12)巨人、阪急首位で折り返す(1968年7月22日読売 朝刊)
- ・(13)ロッテが二位以下を大差で引き離さず独走態勢で折り返した。(1970年7月18日 毎日 朝刊)
- ・(14)巨人老いやすく連覇は難し? 平均32歳リーガー 4割台で折り返し(1973年7月20日 朝日 朝刊)

相撲、サッカー他の場合も1970年前後に現れ始めた。

- ・(15)8日目 琴桜、全勝で折返す 柏戸3敗__戦績(1968年7月15日朝日 朝刊)
- ・(16)優勝争い、小差で後期戦へ 東洋工、手痛い大敗 前日立が首位で折り返し(1974年6月3日朝日 朝刊) サッカー日本リーグ

スポーツ以外、選挙戦、任期等の前半、後半について表す場合にも使われ出してきた。後半にかかったという意味合いが強い。後半にかかったという意味合いが強くなったのは、前述した東京五輪1964年の円谷選手の後半の追い上げ、1968年のメキシコ五輪の君原選手の後半の追い上げのインパクトが強かったからかもしれない。

ユとして、おおよそハーフマラソンの長さに匹敵する大きいループ1周と、約10kmの小さいループ2周で構成された。

¹³ 東京マラソンの旧コースの中間点は折り返し地点ではない。

- ・(17)折返し点に来た刷新都議会（各党幹事長座談会）（1967年9月15日朝日 朝刊）
- ・(18)長野県塩尻市 折返し点すぎた共産党市政 柔軟に現実路線進む 地方自治（1969年6月24日朝日 朝刊）

なお、人生の折り返しは1980年代に登場している。

- ・(19)男の四十代は女の三十代と同じく十分魅力的だ(中略) 男の四十二、三歳は大厄と恐れられる。ちょうど肉体と精神との一種変わり目で、人生の折り返し点に当たるからだろう。（1982年5月8日読売 朝刊）

14. まとめ

「折り返し」は、「折り返し糸」が1894年使われはじめ、折り返し運転、「折り返し連絡します」は1900年ごろから使われはじめていた。マラソンは、1945年ごろまで引き返し（点）を使っていた。折り返しは、マラソンの場合中間点でないことが多い。折り返しが中間点だと人々が意識したのは東京五輪の男子マラソン、メキシコ五輪の男子マラソンの影響であろう。期間の使い方はスポーツ、社会とも1960年後半ごろ使われ始め「人生の折り返し(点)」の「折り返し(点)」は1980年代に使われていた。東京オリンピック1964のマラソンが影響しているのではないか。

15. 今後の課題

1930年代から1945年代のコース事情はどうか。新聞のデータベース以外にも陸上競技史の資料等を基に考えてみたい。

水泳は、1970年代から「折り返し」が使われている。他のスポーツの場合（たとえば、自転車ロードレース等）はどうであろうか。水泳の場合、「折り返し」の類義語に「ターン」がある。「ターン」と「折り返し」の関係がどうであるのかも考える必要がある。それから、表記の問題がある。「折り返し」「折返し」「折返」という表記があるがよく使われる表記は何かについても通時的、共時的な視点で考える必要がある。その時に考慮に入れなければならないのは「送りがなの使い方」「送り仮名の使い方」であろう。

参考文献

- 高橋進(1981)『マラソン講談社スポーツシリーズ』〔改訂版〕講談社
- 岡尾恵市(1996)『陸上競技のルーツをさぐる』文理閣
- 清水泰生(2016)「スポーツとことわざ、ことわざ類」『スポーツ言語学研究』創刊号スポーツ言語学会
- 朝日新聞校閲センター（2020）『日本語の奥深さを日々痛感しています』さくら舎
- 日本陸上競技連盟七十年史編集委員会編『日本陸上競技連盟七十年史』さくら書房
- 日本陸上競技連盟 HP <https://www.jaaf.or.jp/>（2022年2月1日採集）
- 東京五輪マラソン折り返し点 50年経て再び熱気を待つ
<https://style.nikkei.com/article/DGXMZO04163530Y6A620C1000000/>（2022年2月1日採集）
- 黒田勇(2021)『メディアスポーツ 20世紀』関西大学出版部
- Pedersen, P.M., Miloch, K. S., & Laucella, P. (2007) 『Strategic sport communication』 Human Kinetics.
- 朝日新聞 2019年8月24日朝刊ことばサプリ